

## 米国経済点描 (2008. 8. 01)

～2008年第Ⅱ四半期実質GDP成長率(速報値)～

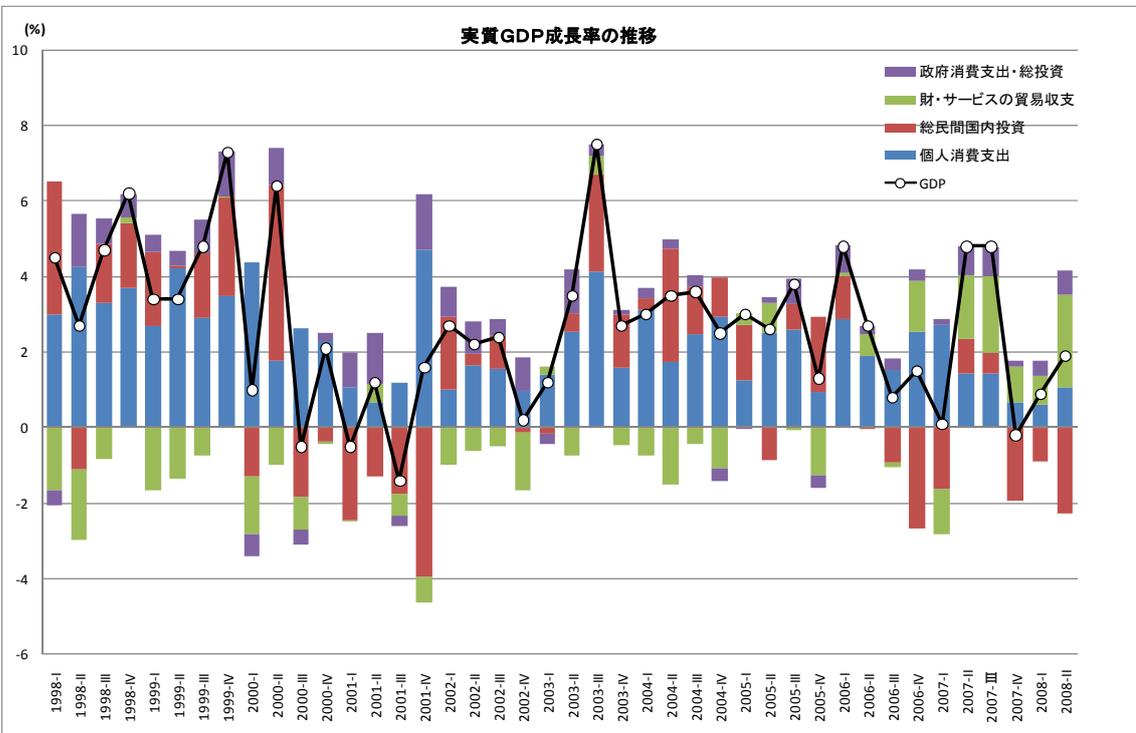
7月30日、米国商務省経済分析局(BEA)は2008年第Ⅱ四半期(4月～6月)のGDP速報値とあわせて2005年第Ⅰ期以降の年次改定の結果を公表した。

これによると、2008年第Ⅱ四半期の季節調整済みの実質GDPの速報値(advance)は、年率換算で1.9%成長と改定された前期の成長率0.9%から1ポイント高い成長となった。この成長には、輸出、輸入(控除)、個人消費支出、非住宅建設、政府支出が、民間設備投資及び住宅建設のマイナスを相殺してプラスに寄与している。

比較的高い成長となったのは、輸入の減少幅が拡大する一方、輸出が増加し、あわせて住宅建設投資の減少幅が縮小、個人消費支出が増加したためである。

なお、コンピュータ販売は経済成長を0.12ポイント押し上げ、自動車の生産減少は1.07ポイント経済成長を引き下げる効果となっている。

今回は個人消費支出が比較的好調(1.5%成長)であったが、これは政府の戻し減税の効果と見られ、減税により5月の可処分所得が前月比で5%ほど増加し、非耐久消費財消費が伸びたためである。しかし、耐久財に限ると第Ⅰ四半期から3%減少し、減税効果は耐久財には及んでいない。減税効果は一過性のものに終わる可能性が高い。



○お問合わせ先○

株式会社アクシスリサーチ研究所 〒107-0052 東京都港区赤坂渡辺ビル4F  
 TEL 03-5572-7770 FAX 03-5572-7771 E-mail [contact@axis-research.co.jp](mailto:contact@axis-research.co.jp)